

東三河振興ビジョン（将来ビジョン）

平成 26 年度の主な取組状況とさらなる推進について

～豊かさが実感できる 輝く「ほの国」東三河を目指して～

I 趣旨

本資料は、平成 25 年 3 月に策定した東三河振興ビジョン（将来ビジョン）に示されている重点的な施策の具体化の状況を、毎年度、東三河ビジョン協議会でとりまとめ、点検・公表するとともに、新たな課題への対応や各種連携方策を協議し、将来ビジョンのさらなる推進を図っていくためにまとめたものです。

II 平成 26 年度の主な取組状況

平成 26 年度は、前年度の「B-1 グランプリ in 豊川」の成功体験を共有した東三河において、連携をさらに本格化させる各取組が実施されました。将来ビジョンに掲げる 7 つの重点的な施策の方向性を踏まえた主な取組状況については、以下、3 ページ以降にとりまとめました。とりわけ、平成 27 年 1 月の、東三河 8 市町村を構成団体とする「東三河広域連合」の設立は、東三河の「地域力」と「自立力」を高め、東三河の将来に大きな影響を与えるものとして期待されているところです。

なお、将来ビジョンに位置づけた重点的な施策を具体化し、推進するために毎年度策定する「主要プロジェクト推進プラン」については、平成 24 年度策定の「広域観光の推進」、平成 25 年度策定の「地域産業の革新展開」と「再生可能エネルギーの導入推進」に着実に取り組むとともに、新たに「スポーツ大会を活かした地域振興」、「地域連携事業の戦略展開」をテーマとして策定しました。

「地域連携事業の戦略展開」をテーマとした主要プロジェクト推進プランの策定に当たっては、地域が連携して早期に取り組むべき個別事業（リーディングプロジェクト※）を 3 つ抽出し、核となる自治体を中心として、集中的に検討しました。これらのリーディングプロジェクトの具体化を通じて、先行する主要プロジェクト推進プランについても一層の充実・加速化を目指す必要があります。

※「地域連携事業の戦略展開」における 3 つのリーディングプロジェクト

- ①アンテナショップ等を拠点とした地域ブランドの強化と販路拡大
- ②戦略的な加工食品開発による海外輸出の本格化
- ③東三河ジオパーク構想の推進

III 将来ビジョンのさらなる推進に向けて

平成 26 年 11 月、「まち・ひと・しごと創生法」が施行され、平成 27 年度中に、各地方公共団体において、地方創生総合戦略を策定することとなります。そこで、「地方への新しいひとの流れをつくる」、「地域と地域を連携する」等といった総合戦略の基本目標を念頭に置きつつ、新たに「地方創生事業の広域展開」をテーマとした主要プロジェクト推進プランを策定していきます。

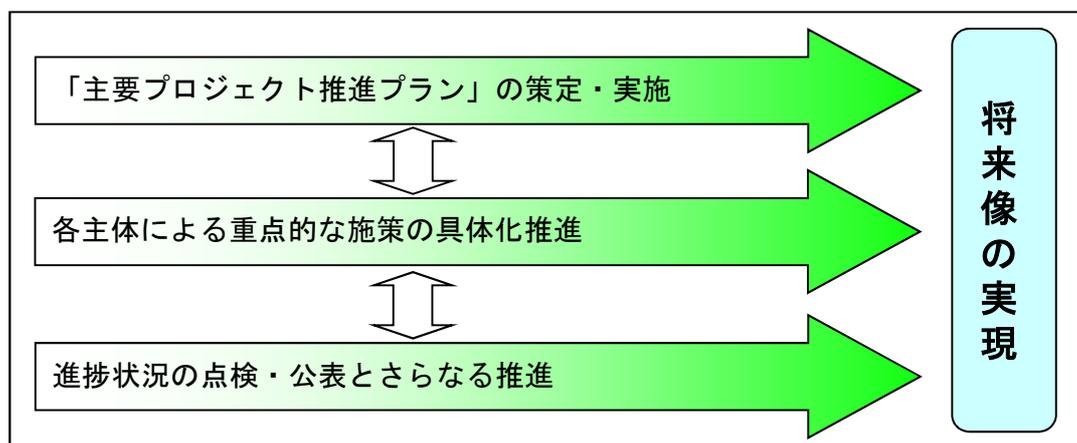
策定に当たっては、「『ほの国』東三河ブランド戦略の推進」、「産学官連携による産業人材の育成・確保」の 2 つをリーディングプロジェクトとして位置付けます。地域資源を活用したブランド戦略の推進や、東三河への人材還流・東三河での人材育成といった取組をより効果的に実施し、東三河における「まち・ひと・

しごと」の創生につながるよう検討を進めていきます。

なお、平成 27 年度からは、主要プロジェクト推進プランの策定過程に、東三河広域連合が東三河ビジョン協議会の構成員として参画することとなります。また、愛知県においては、平成 27 年を「あいち観光元年」として、観光を新たな戦略産業として位置付けることとしています。このような、新たな動向も踏まえながら、各主体が緊密に連携しつつ、東三河における広域的な取組のさらなる推進を図っていきます。

今後も引き続き、主要プロジェクト推進プランの策定・実施を始め、地域づくりの各主体が、東三河における地域づくりの羅針盤である将来ビジョンを共有し、多様な協力体制の構築や各種連携方策の協議等を通じ、一体となって各取組を進めることで、地域の発展をさらに加速していきます。

【将来ビジョンの推進イメージ図】



Ⅱ 平成 26 年度の主な取組状況

1 東三河の魅力の創造・発信 ～地域内外に誇りうる魅力ある地域づくり～

【施策の方向性】

変化し続ける観光客のニーズや他地域との差別化を念頭に置きながら、伝統文化等の各地域の特性を活かした個性的な地域づくりや、地域資源の磨き上げを行っていきます。また、東三河の魅力が的確に伝わるよう、地域ブランドの構築を図っていきます。

さらに、広域交通網の整備効果を活かしながら、国内外からの誘客を強化するため、遠州地域や南信州地域、伊勢志摩地域等と連携しながらプロモーションを展開していきます。

【「ほの国東三河ロケ応援団」によるロケ誘致支援】

- 東三河地域の豊かな自然、風景等を活かしたロケ誘致を実施し、住民の地域に対する誇りを高めるとともに、来訪者の増加による地域振興にも寄与。豊橋市民球場で6月7日に行われたTVドラマ「ルーズベルト・ゲーム」最終回ロケには大村知事を始め、県内外から約4千人がエキストラとして参加。



(「ルーズベルト・ゲーム」最終回ロケ・記念イベント)

【東三河の地域特性を活かした新たな観光ツアーの実施】

- 10月に新設されたメルセデス・ベンツ日本の豊橋新車整備センターを始めとする自動車産業施設と渥美半島観光を組み合わせた「三河港自動車産業観光ツアー」や、ラグーナテンボスにおける「ヘルスケアツーリズム・モニターツアー」を実施。



(三河港自動車産業観光ツアー・チラシ)

【奥三河のき山学校の整備】

- 東栄町の旧東部小学校廃校舎を、都市と山村の交流拠点施設「奥三河のき山学校」として環境整備。農作物収穫体験や伝統芸能体験など「山里暮らし」の体験事業を継続的に実施。



(奥三河のき山学校)

【主要プロジェクト推進プランの策定】

- 「スポーツ大会を活かした地域振興」をテーマとする主要プロジェクト推進プランを策定(計画期間:27年度~29年度)。
- 「地域連携事業の戦略展開」をテーマとする主要プロジェクト推進プランを策定し、「アンテナショップ等を拠点とした地域ブランドの強化と販路拡大」をリーディングプロジェクトに位置付け(計画期間:27年度~29年度)。

推進プラン「スポーツ大会を活かした地域振興」の主な取組内容

- 1 地域連携によるスポーツ大会の新展開
- 2 世界・全国レベルのスポーツ大会の招致
- 3 スポーツ大会による地域振興

2 豊かな自然の保全・再生 ～人と豊かな自然が共生する地域づくり～

【施策の方向性】

里地・里山・里海における生物多様性保全の取組により、森・川・海の命が連なる流域圏づくりを推進していくとともに、豊かな自然環境を農林水産業の生産の場としてはもとより、教育や健康増進、観光振興等の地域資源としての活用を進めていきます。

また、三河湾の環境再生に向けては、流域全体での関心を高めながら、陸域からの汚濁負荷量の削減や、多様な生態系の働きによる水質浄化機能の回復等に取り組んでいきます。

【生物多様性全国ミーティング&

生物多様性自治体ネットワークフォーラムの開催】

- 生物多様性の保全と持続可能な利用について理解を深め、行動につなげるため、豊橋市において開催。COP10で採択された愛知目標の達成に向けた取組をテーマにパネルディスカッション等を実施（10月24日）。



(パネルディスカッション)

【「奥三河高原 ジビエの森」の整備】

- 野生鳥獣肉（イノシシ、ニホンジカ）の食肉処理施設「奥三河 ジビエの森」が整備され、奥三河地域の飲食店等への食材供給を開始（27年4月から稼働）。



(奥三河高原 ジビエの森)

【「いらご さららパーク」の一部供用開始】

- 伊良湖休暇村公園において、この地域特有の希少な海浜性植物を展示・保全するとともに、観光拠点となる、全国初の砂丘とオアシス（湧水）の再生をテーマとしたエリアを整備。10月に一部供用開始。



(いらご さららパーク供用開始エリア)

【三河湾大感謝祭の開催（三河湾環境再生プロジェクト）】

- 県民、NPO等団体、市町村及び県が一体となって推進する「三河湾環境再生プロジェクト」のメイン事業として「三河湾大感謝祭」を開催（8月9日）。干潟の生きもの観察会 in 蒲郡等を実施。



(三河湾大感謝祭 開催セレモニー)

【主要プロジェクト推進プランの策定】

- 「地域連携事業の戦略展開」をテーマとする主要プロジェクト推進プランを策定し、「東三河ジオパーク構想の推進」をリーディングプロジェクトに位置付け（計画期間：27年度～29年度）。



(鳳来寺山・ジオツアー)

3 地域産業の革新展開 ～力強い産業が展開する地域づくり～

【施策の方向性】

環境問題や高齢社会への対応といった社会的課題に焦点を当てながら、本地域の強みであるモノづくりの素地を活かし、次世代自動車や健康長寿、新エネルギーといった次世代産業の創出・集積や、それらの産業をリードする人材の育成を進めていきます。

また、農林水産業については、農商工連携や産学官による技術開発等の促進、さらには海外マーケットへの進出により、地域を牽引する成長型産業への躍進を図っていきます。

【たはらソーラー・ウインド共同事業の発電開始】

- 太陽光と風力を組み合わせた国内最大級のハイブリッド発電所「たはらソーラー・ウインド発電所」の稼働（10月）を始め、新エネルギー関連施設がさらに集積。



(たはらソーラー・ウインド発電所)

【社会人キャリアアップ連携協議会の設立】

- 産学官の連携により、社会人キャリアアップ連携協議会が10月に設立。地域産業、地域社会を支える社会人のキャリアアップ・システムの構築・推進を目指し、各構成団体で実施する人材育成プログラムの共有・一元化を推進。



(社会人キャリアアップ連携協議会HP)

【植物工場におけるトマト栽培実証実験】

- (株)サイエンス・クリエイトがIGH（イノベーション・グリーン・ハウス）プロジェクトを実施。植物工場において国産大玉トマトを栽培。12月に第2作目が終了し、10aあたり50tという目標を達成。



(IGHプロジェクト)

【海外マーケットに対する販路開拓】

- 「愛知フェア in タイ・バンコク」を始め、香港、シンガポール、ウラジオストクにおいて、東三河産の野菜、加工食品などを販売、出展。



(愛知フェア)

【主要プロジェクト推進プランの策定】

- 「地域連携事業の戦略展開」をテーマとする主要プロジェクト推進プランを策定し、「戦略的な加工食品開発による海外輸出の本格化」をリーディングプロジェクトに位置付け（計画期間：27年度～29年度）。



(愛知県先導事業における加工食品試作品・グラノーラ)

4 安心・安全な地域づくり ～安心して安全に生活できる地域づくり～

【施策の方向性】

東海、東南海及び南海地震の三連動地震や南海トラフを震源とする巨大地震、台風・集中豪雨等の自然災害に対し、ハードとソフトの両面において、生命・財産を守る防災・減災対策を強化していきます。

また、医療や介護の課題に対し、地域間における連携や地域全体での支え合い等を促進しながら、充実・強化を図るとともに、交通安全・防犯対策を進め、地域の安心・安全を確保する取組を強化していきます。そして、奥三河においては、集落機能の維持・再生や生活環境までを見据えた、きめ細かな対応を行っていきます。

【防災・減災対策の推進】

- 東日本大震災の教訓を踏まえ、大規模災害時における港湾物流の「機能継続」と早期復旧のため、港湾関係者が協働して、27年3月、「三河港BCP（事業継続計画）」を策定。



(机上訓練)

【地域医療連携の充実・強化】

- 4月、県が豊橋市民病院を総合周産期母子医療センターに指定し、地域の産科医療機関と連携した周産期医療体制を強化。



(豊橋市民病院)

【交通安全・防犯対策の推進】

- 近年の事故統計に基づき、豊橋市及び豊川市においてドライバーを対象とした交通安全啓発活動を重点的に実施するなど、県、市町村、県民、事業者等が連携・協働した対策を推進。



(ドライバーマナー向上
キャンペーン広報車)

【北設楽郡3町村による地域再生計画策定】

- 北設楽郡3町村は、超高齢化・人口減少社会における持続可能な地域形成を目指し、「住んでよし、訪れてよし、移住してよしの田舎」北設楽郡創造計画を策定。地域再生計画として認定（27年1月）。



(定住促進空き家活用住宅への
入居希望者見学会)

5 誰もが活躍できる地域づくり ～誰もが希望を持って活躍できる地域づくり～

【施策の方向性】

若者、女性、高齢者、外国人など誰もが能力を十分に発揮し、社会の様々な場面で活躍できるよう、きめ細かな教育環境づくりや職業観・職業能力の育成、多様な柔軟な働き方を可能とする就業環境の整備などの取組を進めていきます。

また、拡大する公共ニーズを地域全体で支える「新しい公」の担い手として、企業やNPOなど様々な主体との連携・協働を促進し、相乗効果を生み出していきます。

【特別支援学校の設置等】

- 特別支援学校に通う生徒の長時間通学を解消するため、県立田口高校内に県立豊橋特別支援学校の分教室「山嶺教室」を設置（26年度）。
- 県立豊川特別支援学校の過大化による教室不足を解消するため、豊橋市立くすのき特別支援学校が開校（26年度に県が施設整備費支援。27年度開校）。



(山嶺教室開設)

【技能五輪全国大会の開催】

- 11月に開催された技能五輪全国大会では、5つの競技（配管・電気・建築大工・造園・とび）を豊橋市内で実施。若年層の技能向上、技能尊重気運の醸成等を図るとともに、会場周辺において、おもてなしイベントが併催され、ものづくり体験等を実施。



(技能五輪 豊橋会場（造園）)

【長期的なインターンシップ実施体制づくり】

- 東三河地域4大学のキャリアセンター、東三河広域経済連合会等が連携し、東三河の学生がより実践的で長期的なインターンシップに参加できる体制づくりを実施。



(東三河地域産業人材育成事業)

【子ども・若者支援ネットワークの整備】

- 既設の豊橋市、蒲郡市に続き、「子ども・若者支援地域協議会」が、田原市において4月に、豊川市において27年4月に設置。また、三遠子ども・若者支援ネットワーク会議の開催等を通じ、ニート、引きこもり等の困難を有する子ども・若者に対する支援体制・連携が強化。



(三遠子ども・若者支援ネットワーク会議)

6 地域を支える社会基盤の整備 ～地域の産業や暮らしを支える社会基盤の整備～

【施策の方向性】

「東三河1時間交通圏」を確立する道路整備や、バス、鉄道、フェリーといった地域公共交通の維持・確保により、地域内外とのネットワークを充実していきます。

また、世界と直結する三河港の機能強化を進め、グローバルに事業展開する産業を支えるとともに、三河港周辺の国際的な生産・物流拠点の形成や新たな産業集積につなげていきます。

あわせて、活発な産業活動が持続可能となるよう、水資源やエネルギーの安定的・恒久的な確保を図っていきます。

【広域的な幹線道路網の整備促進】

- 三遠南信自動車道、名豊道路の未開通区間の早期整備や浜松三ヶ日・豊橋道路の早期実現等を地域が一体となって国に働きかけるなど、広域的な幹線道路網の整備を促す取組を推進。



(名豊道路の整備 (蒲郡市内))

【道の駅の整備】

- 新東名高速道路新城ICの出入口交差点横に、「奥三河観光ハブステーション」を基本コンセプトとした道の駅「もっくる新城」がオープン(27年3月)。
- 豊根村の道の駅「グリーンポート宮嶋」リニューアルオープン(27年4月)に向けた改修工事を実施。
- 豊橋市内における新たな「道の駅」整備に向けた検討を開始。



(道の駅「もっくる新城」)

【三河港の機能強化】

- 神野西地区におけるふ頭用地の拡張整備や、蒲郡地区における水深11メートル岸壁の整備(27年3月一部供用開始)等を推進するとともに、海外におけるポートセールスを実施。



(三河港)

【市民ファンドを活用した県有施設における屋根貸し太陽光発電事業】

- 地域住民が一体となって再生可能エネルギーの導入拡大を図るため、市民ファンドを活用して屋根貸し太陽光発電を行う施設として、水産試験場を始めとする東三河の県有施設5か所が決定。



(屋根貸し太陽光発電・水産試験場)

7 地域力・連携力の発揮 ～愛知県、ひいては日本の発展の一翼を担う地域づくり～

【施策の方向性】

産業振興や行政の効率化など、地域の様々な課題を解決するため、地域づくりの主体となる県、市町村、経済団体、大学、NPO、住民等が共通の課題認識のもとに、それぞれが持つ強みを活かしあった連携を推進していきます。

また、これまで培ってきた三遠南信連携の実績や信頼感をもとにしながら、より活発な取組へと深化させていきます。

【東三河広域連合の設立】

- 27年1月、東三河広域連合が設立。
6つの共同処理事務のほか、新たな広域連携事業や権限移譲に係る調査研究を開始。



(東三河広域連合 設立)

【東三河広域経済連合会等による連携強化】

- 東三河広域経済連合会の主催により10月に開催された「ものづくり博 in 東三河」の企画・運営等を通じ、各構成団体間の連携を強化。
また、東三河広域観光協議会主催の「ほの国いいもの・うまいものフェア」が同時開催され、効果的な連携を推進。



(ものづくり博 in 東三河 チラシ)

【生態系ネットワーク協議会の設立】

- 生態系ネットワーク形成を推進するために、地域ごとに多様な主体が参加・協働する場として、渥美半島生態系ネットワーク協議会が設立(27年1月)。この協議会と既設の東三河・新城設楽の2協議会と併せて、生態系ネットワーク協議会の対象エリアが東三河全域を網羅。



(アカウミガメの上陸・産卵地である太平洋岸)

【三遠南信連携の推進】

- 三遠南信地域連携ビジョン推進会議に「道路」、「産業」、「安全・安心」の3つの事業部会を設置し、事業推進体制を強化。「三遠南信サミット2014 in 遠州」のサミット宣言において、28年度を目途とした広域連合などによる連携体制の整備を目指し協議を促進することを確認。



(三遠南信サミット チラシ)